

私の仕事（若手職員のレポート）



株式会社東京設計事務所 池 和歩

1. はじめに

入社して2年が経ち、仕事にも慣れてきてできることや任される仕事も増えてきました。

大学では構造力学や水理学、上下水道や水環境等についても学びましたが、現在の方が「勉強している」と感じる人が多いです。もちろん大学時代の勉強が基礎となっていますが、大学時代と比較にならない程、物事を説明することが増えたことがその理由です。学生時代は授業を理解し、テストで点数を取れば問題なかったのが、社会人になると自分が理解していても、相手に説明し理解してもらわなければなりません。説明能力については入社してから努力してきた部分でもあり、まだまだ成長しなければと感じる部分でもあります。

今回は、私が2年間で携わった仕事の一部について説明したいと思います。

2. 私の仕事

私は、(株)東京設計事務所に入社し九州支社に配属となり、下水道の計画を担当しています。

九州支社は東京や関西と比較すると大きな支社ではないので、支社内に同じ下水道の計画を担当している人も多くないですが、一人一人と関わる時間が長く、分からないところや躓いたところですぐに質問ができる環境だと思います。

また最近では、実施設計の仕事の補助で、実施設計の仕事内容や進め方を垣間見ることができました。他にも、ある自治体の水道ビジョンと上下水道の経営戦略を受注したことで、水道の仕事の一部も見ることができ、大きな支社ではないからこそ様々な仕事や人それぞれの仕事の進め方を見ることもできていると思います。

ここからは、下水道の計画の仕事についていくつか抜粋して書いていきます。

(1) 事業計画の変更

事業計画の変更は、入社後最も多く担当した仕事です。初めのところは何をすれば良いのかも分からず、上司や先輩の指示を受け、分からない箇所は聞きに行くことを繰り返して

っていました。

また、私は入社するまでCADを触ったこともなかったので、社内や協力会社の様々な方に教えてもらいました。

最近では、仕事の進め方も分かってきて一人でこなせる範囲も増えてきました。相手方に説明するときは未だに緊張することもあります。説明することでさらに理解を深めるきっかけとなっています。

(2) 総合地震対策

総合地震対策では、主に管渠の耐震化の優先順位の決定などを担当しました。

そもそも、自治体が総合地震対策の対象となっているのか、DID地域を調べたり南海トラフ地震防災対策推進地域などを調べたりしました。そこからGIS上で緊急輸送路等の下の管渠や防災拠点等の排水を受けている管渠を調べ、自治体の意向を聞きながら優先順位について決定しました。大規模な都市で下水道が昔からある自治体では対象となる管渠が多く、優先順位の決定に苦労しました。

この業務でGISを使うことが多くなり、先輩方やGISに関する本から操作を学び、なんとか扱えるようになってきました。特定の管渠（例えば、避難所から処理場まで）をマークできるようにエクセルの機能を用いてプログラミングを自作してみるなど自分なりに創意工夫をした業務になったと感じています。



写真-1 現地調査（左端が筆者）

(3) 不明水調査

不明水の調査は、実際に現場を歩き流量計の設置場所の検討をしました。その際に初めてマンホールの中を見ました。普段マンホールの蓋を見ることはあっても、その中身についてもマンホールの中に入っていく人についても想像することはありませんでした。

この時改めて下水道に携わる仕事をしていると感じた印象に残った仕事の一つとなりました。

(4) 広域化事業など

汚泥の集約の検討や農業集落排水の公共下水道への接続などに携わりましたが、ここではMICSについて説明したいと思います。

この業務では将来の人口及び水量の検討を主にしました。経営戦略などの資料から人口のデータを整理し、事業計画の原単位を用いて汚水量を推定したり、し尿、浄化槽の実績値から原単位を算出し将来の量を推定したりしました。

そこからは、先輩が作成した汚泥の収支計算や施設の容量計算のエクセルを少しずつ理解しながら、検討を進めました。

この業務は実施設計に繋がり、今も補助として携わっています。この施設が出来上がるのが楽しみです。

このように様々な業務に2年間で携わることができました。その中で様々な人からアドバイスや手助けを頂き、なんとか仕事を終わらせることができています。今後は私自身が他の人をサポートできるように頑張りたいです。

また、この仕事は出張が多く、初めて行く土地もあり、出張でどこに行けるか考えることが密かな楽しみです。出張の帰りにお土産を買うことや、出張で行った自治体の観光名所を後日旅行することも楽しみの一つです。

3. 後輩

入社当時、新入社員が九州支社に配属されるのは数年ぶりだったこともあり、後輩ができるのは5年くらい経たないとなんかと思っていました。

その予想に反して、去年、今年と2年連続で新入社員が九州支社に配属され、後輩が2人できました。うれしい反面、自分がしてもらったようなサポートが出来ていないと感じ、頼れる先輩になれるように勉強なくては、と身が引き締まっています。

4. レクリエーション

行事としては、年に1回程度リレーマラソンに参加していて、1年目は20～60歳代の10人で完走しました。2年目は都合がつかず20～40歳代と若いメンバーではあるものの6人で走り、完走しました。どの年も快晴で気持ち良かったのですが、2年目は人手不足で走る量が多く、天気を気にしている暇がありませんでした。

社会人になってから始めたゴルフでは、最初はボールがまっすぐ飛ばずに苦勞しましたが、ここでも先輩にコツを教えてもらいながら少しずつスコアを伸ばしています。年に数回コンペがあり、他支社や協力会社の方とも関わることができ楽しくやっています。

他にもBBQをしたり、先輩が家で料理を振る舞ってくれたり、野球を見に行ったりと仕事の合間にリラックスできる貴重な時間があり仕事の活力となっています。



写真－2 リレーマラソン (2列目左から4人目が筆者)

5. おわりに

ここまで書いてきて、私には仕事でも遊びでも優しく教えてくれる先輩方がいることを再度実感しました。

また、はじめに書いたように説明する力が必要で、これからも分かりやすい資料や説明ができるように試行錯誤しています。

大学時代に就活を始めるまでは、水コンサルタントについてまったく知らなかった私ですが、今ではもっと下水道の知識を深めたいという欲が湧いています。

いろいろな人から頼られる存在になりたいです。